

4 港区における 小学校の現状と課題及び再編案について



港区西部地域における小中学校の配置状況



港区における小学校の現状



1. 港区全体の状況

港区内の大阪市立小学校の児童数



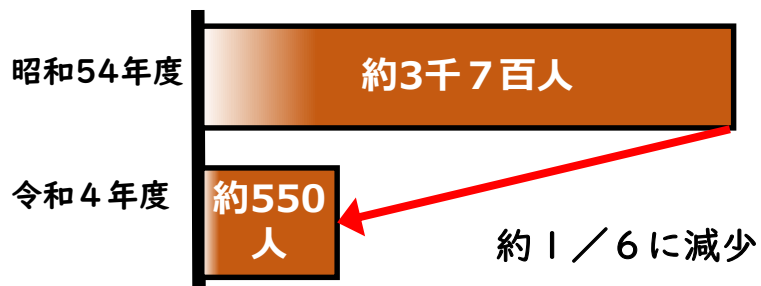
港区内の大阪市立小学校の学校数



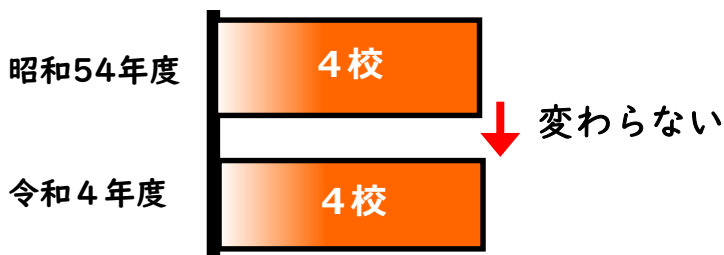
- 小学校の小規模化が大阪市の平均よりさらに進行しています。

2. 港区・西部地域（八幡屋小・港晴小・池島小・築港小）の状況

港区・西部地域の大阪市立小学校の児童数



港区・西部地域の大阪市立小学校の学校数



- 大阪市、港区全体よりも児童数が減少しており、小学校の小規模化がさらに進行しています。

港区・西部地域の小学校の児童数

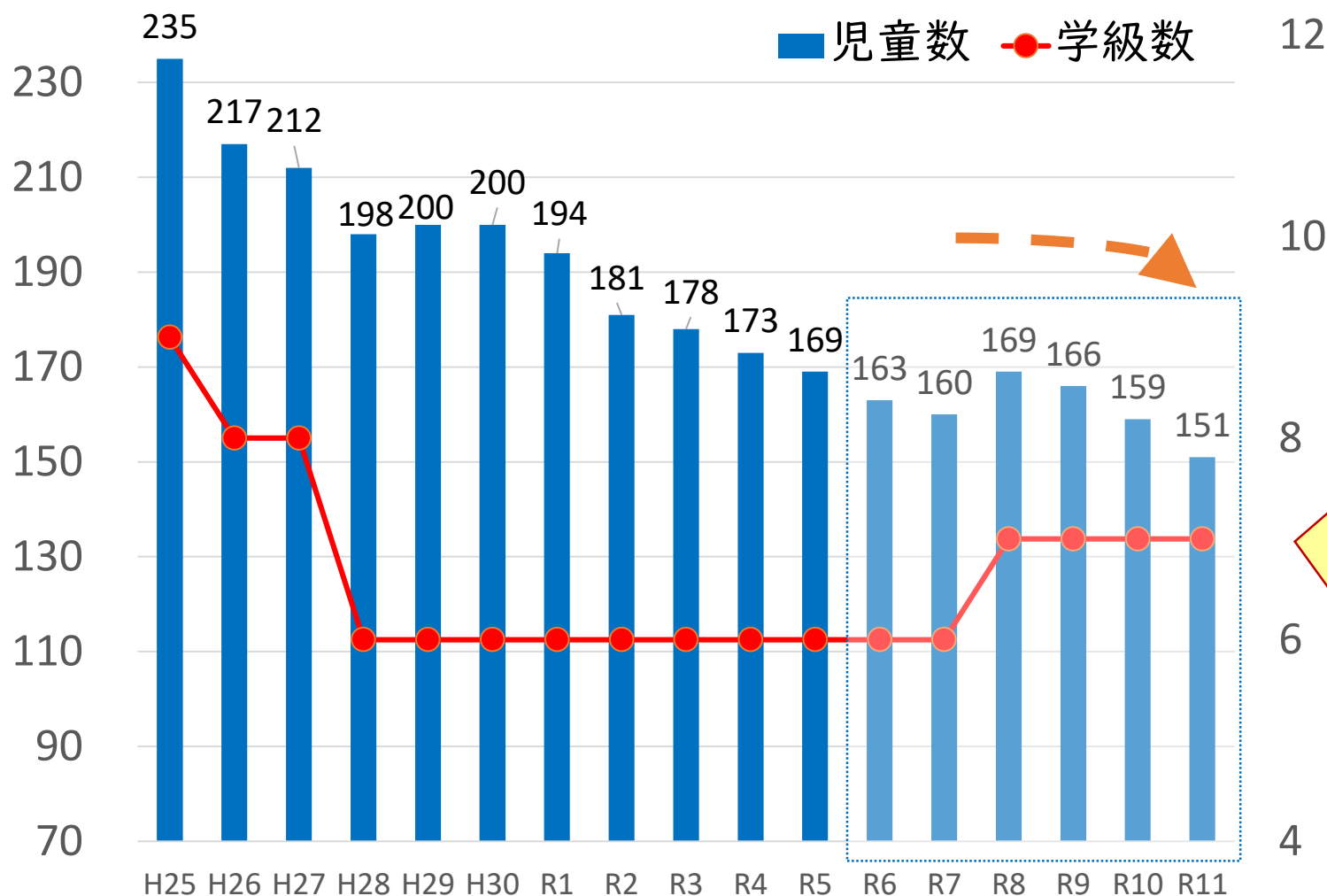


<令和5年5月1日現在>

	八幡屋小			港晴小			池島小			築港小		
	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女
6年生	30	16	14	27	15	12	12	3	9	25	10	15
5年生	27	19	8	31	21	10	21	12	9	18	8	10
4年生	27	14	13	19	8	11	19	13	6	18	8	10
3年生	26	10	16	28	14	14	14	10	4	19	8	11
2年生	30	20	10	17	9	8	12	6	6	19	13	6
1年生	29	16	13	33	17	16	9	8	1	22	14	8
計	169	95	74	155	84	71	87	52	34	121	61	60

児童数の減は、男女別に見ると、さらに深刻な状況にある。

児童数の推移 ～八幡屋小学校～

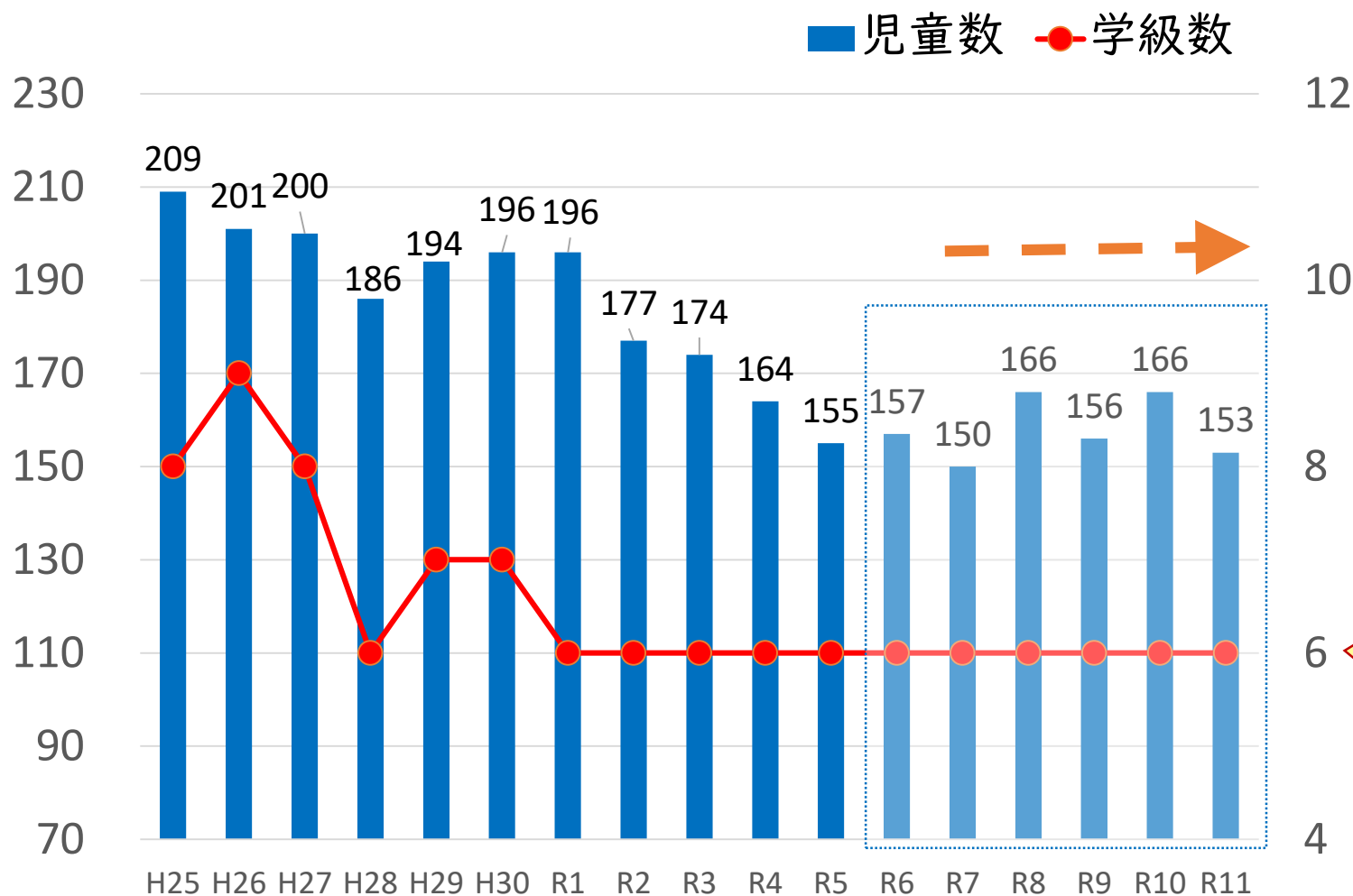


将来推計では、
R8の新入の学年
が35～37名と
予測し、7学級で
推移する見込。

※各年5月1日現在の児童数・学級数

※推計(R6～R11)は暫定値(R5年5月現在未定稿)

児童数の推移 ～港晴小学校～

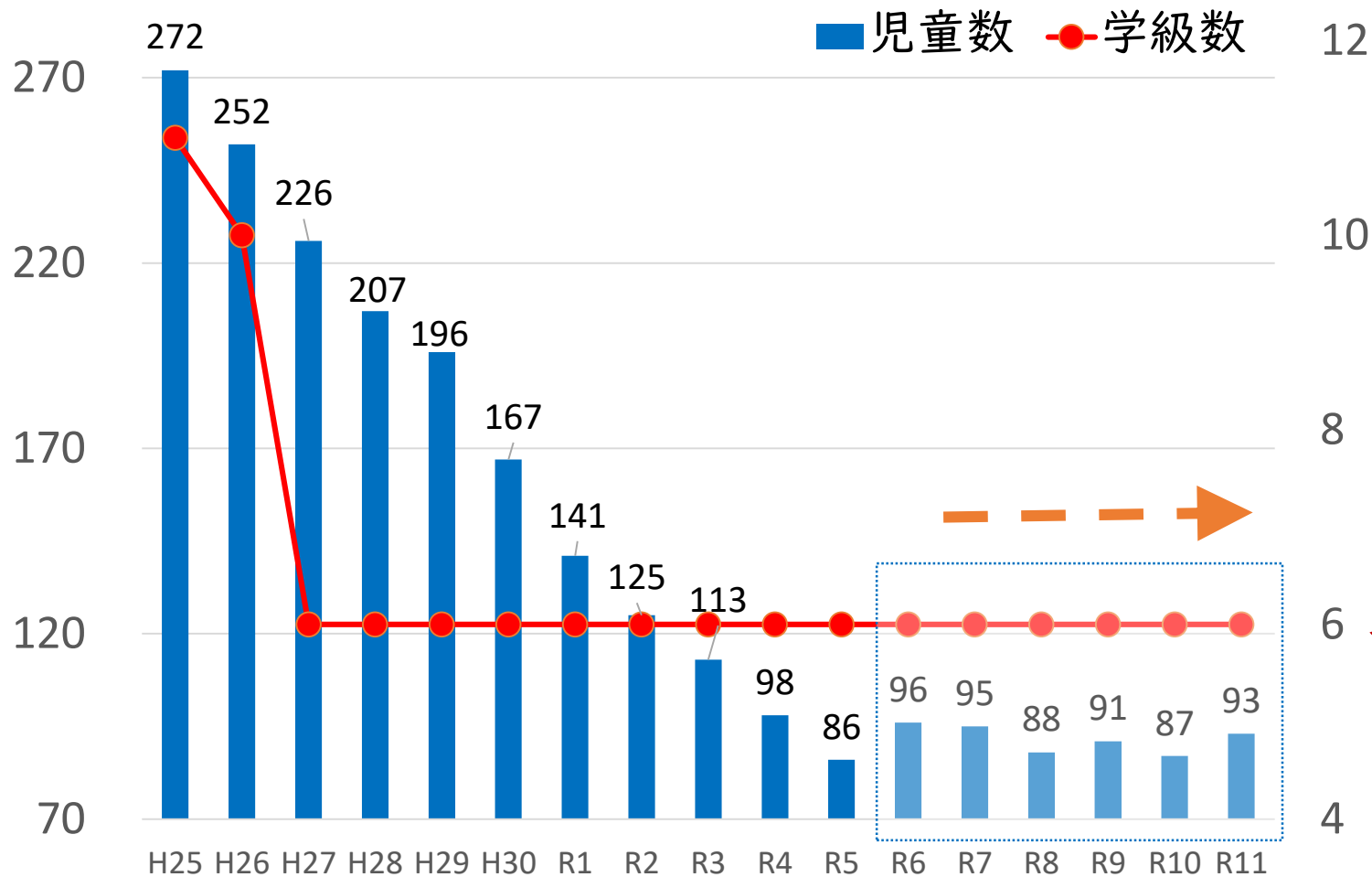


将来推計では、
6学級が続く
見込み。

※各年5月1日現在の児童数・学級数

※推計(R6～R11)は暫定値(R5年5月現在未定稿)

児童数の推移 ～池島小学校～

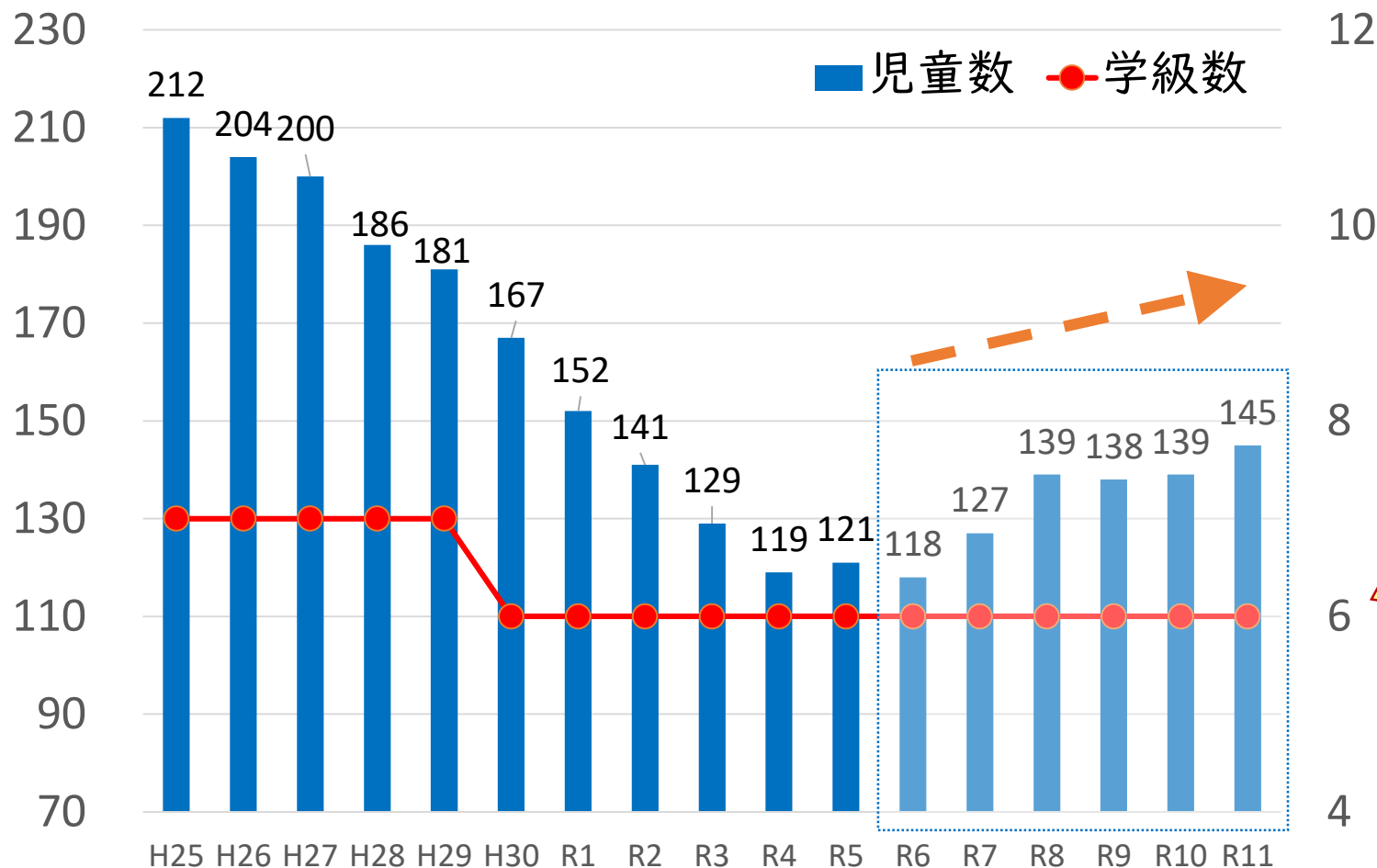


将来推計では、
6学級が続く
見込み。

※各年5月1日現在の児童数・学級数

※推計(R6～R11)は暫定値(R5年5月現在未定稿)

児童数の推移 ～築港小学校～



※ 0・1・2歳の幼児が増えているといったデータがある。

今後、緩やかな
増加傾向あり。
ただし、当面は
6学級が続く
見込み。

※各年5月1日現在の児童数・学級数

※推計(R6～R11)は暫定値(R5年5月現在未定稿)

【参考】小学校の統合案（筋原前区長の入船公園案）



【案】

現在の「入船公園」がある場所に
“新しい校舎”を建設し、
3小学校（八幡屋・港晴・池島）を
統合する案。

◎ 教育委員会ほか関係者 との検討による見解

- ⇒ 入船公園の代替地の確保
や現在地に公園がなくなる
ことへの課題。
- ⇒ 相当な期間がかかる。
(想定10年以上)

⇒ 検討の結果、実現性が乏しい。

小学校の統合案（4小1案）



【案1】4小を統合 ＜八幡屋・港晴・池島・築港＞

(メリット)

4校の小規模校化が全て解消

(デメリット)

通学路の安全面に問題

- 築港小は、運河を超える通学路の問題があり、小学生にとって、その距離と交通の安全面から問題がある。



運河① 千舟橋（夕焼け橋）



運河② 静波橋



大型車の通行あり

小学校の統合案（3小＋1小案）



【案2】

3小＋築港小を残す案

(メリット)

- 3校の小規模校化が解消。
- 既存のいずれかの学校を改修することにより、4小案に対し、比較的容易に統合可能。

(デメリット)

- 築港小の小規模解消に向けて、別に取り組みが必要。



築港小の特色化により、今後の複数学級化を目指しつつ、3小を統合して築港小とも連携しながら教育環境を充実させる。

◎ 通学距離・キャパシティ・校舎の築年数等を総合的に考えて『八幡屋小』へのなるべく早い再編案が望ましい

【課題】

- 八幡屋小以外の方からは、吸収されたように感じる。

【対応策】

- 新しい学校として、学校名、制服、校歌などを一新することで、一期生のプレミアム感を出し、子どもたちとともに新しい学校を作る。

八幡屋小を使用する案



◎ 校舎の増築等により、早くとも令和11年度になる。



STEP1「運動場の一部 に校舎を増築する案」

➤ 昔は児童数が多かったので、計算上は入るが、現在、40人学級から35人学級に変わったこと、また、特別支援学級も増えていることから、増築が必要。

STEP2

今後、築港小の小規模化が進行した場合は、さらなる統合を再検討する。

小学校の統合案（児童数・学級数の見込み） 1/3



<4小統合（八幡屋・港晴・池島・築港）シミュレーション>

	令和8年度		令和9年度		令和10年度		令和11年度	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
6年生	86	3	79	3	91	3	99	3
5年生	79	3	91	3	99	3	103	3
4年生	91	3	99	3	103	3	120	4
3年生	100	3	104	3	121	4	79	3
2年生	104	3	121	4	79	3	82	3
1年生	122	4	80	3	83	3	93	3
合計	582	19	574	19	576	19	576	19

※本推計は、暫定値（令和5年5月現在未定稿）

小学校の統合案（児童数・学級数の見込み） 2/3



<3小統合（八幡屋・港晴・池島）シミュレーション>

	令和 8 年度		令和 9 年度		令和 1 0 年度		令和 1 1 年度	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
6 年生	68	2	60	2	70	2	75	3
5 年生	60	2	70	2	75	3	71	3
4 年生	70	2	75	3	71	3	82	3
3 年生	75	3	71	3	82	3	54	2
2 年生	71	3	82	3	54	2	52	2
1 年生	83	3	54	2	52	2	50	2
合計	427	15	412	15	404	15	384	15

※本推計は、暫定値（令和5年5月現在未定稿）



<2小統合（八幡屋・池島）シミュレーション>

	令和 8 年度		令和 9 年度		令和 1 0 年度		令和 1 1 年度	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
6 年生	40	2	42	2	38	2	46	2
5 年生	42	2	38	2	46	2	47	2
4 年生	38	2	46	2	47	2	49	2
3 年生	46	2	47	2	49	2	37	2
2 年生	47	2	49	2	37	2	27	1
1 年生	49	2	37	2	27	1	32	1
合計	262	12	259	12	244	11	238	10

※本推計は、暫定値（令和5年5月現在未定稿）

再編後の学校の魅力化案（小学校）



統合後の学校では・・・
再編インセンティブの活用



教員やスクールカウンセラーの加配
（※必須）



港晴小学校



池島小学校



八幡屋小学校



たとえば、キャリア教育の推進

はじめよう！プログラミング

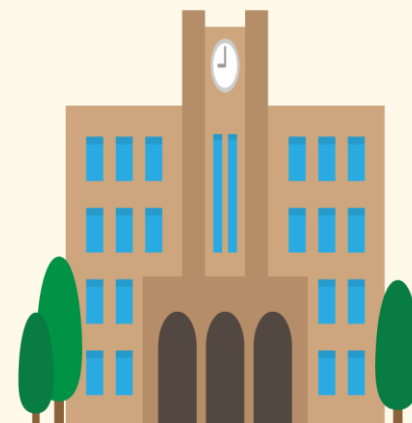


たとえば、ICT教育の推進・強化校

ABC

たとえば、英語・外国語の授業の充実

単独で残る学校では……



築港小学校

たとえば、外国人の居住が増えているエリアとして英語教育やICT教育等の特色化に取り組む。

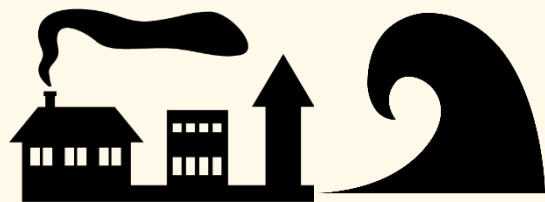
まちの活性化とともに、
学校の魅力化で、地域の
子育て世帯の増加をめざす。

（※注）建物等のイラストは、あくまでイメージであり、実際の景観とは異なります。

学校再編とまちづくりの関係



そもそも港区西部エリアのこどもが減ったのはなぜ？



◎南海トラフのリスクによる開発の回避
⇒防災の強化・「災害に強いまち」のPR



◎市営住宅住民の高齢化
⇒建替えによる空き地へのマンション誘致

◎産業の停滞・変化による労働者の減少
⇒魅力ある仕事×住環境の整備



◎「教育環境の充実したまち」のイメージ不足
⇒学校再編による特色のある学校づくり
学力の底上げと取り組みの発信



学校再編を機に「教育につよいまち・港区」へ

「OSAKAみなと未来教育ネットワーク」



港区では「港区まちづくりビジョン」（令和5年4月一部改訂）の5つの柱の一つとして、「『まちぐるみで子育て』と『多様な学び』を応援するまちづくり」を掲げています。

港区内の大阪市立小学校・中学校の育ちや学びを「**産官学+地域**」の連携したネットワークを開設することで、それぞれの企業・団体が提供できる出前授業や職業体験・教材等の提供や多忙な学校現場の支援を図ります。

特に「多様な働き方、多様な大人のモデル」に義務教育の間に出会うことは、こどもたちの将来の可能性を広げます。



詳しくはホームページに掲載しています。

<https://www.city.osaka.lg.jp/minato/page/0000597931.html>

